

令和5年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

北城小学校

1. 本校の教育目標

充実した学校生活を通し、児童の個性と創造性を伸ばし、知・徳・体の調和がとれた人間形成を図るとともに「生きる力」を育み、社会の変化に主体的に対応できる活力ある人間を育成する。

＜教 育 目 標＞

- | | |
|------------------|---------|
| ○ 健康でねばりづよくがんばる子 | (健康) |
| ○ すすんで勉強する子 | (学習) |
| ○ よく働く子 | (勤労と責任) |
| ○ 仲よく助け合う子 | (協力) |

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたせたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、特別支援学級

(4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	児童へのアンケート結果より ①字をうまく書く「こつ」がわかった…78.1% ②墨・水で書くことが楽しかった…49.2% ③習字が好きになった…33.5% その他意見として ・もっと〇〇のこつを教えてほしい。（「とめ・はね・はらい」「始筆・終筆」「小筆の使い方」「むすびの書き方」「自分の名前の漢字」など） ・もっと〇〇してほしい。（「授業にきてほしい」「一緒に字を書いてほしい」「習字の歴史を教えてほしい」「いろいろな字を書いてほしい」「書いたものを毎回チェックしてほしい」「一緒に遊んだりしてほしい」）
教 員	・書き方のポイントを個別に、細かく指導していただけて、よかった。 ・書き方のポイントについて聞いたり、相談したりすることができた。 ・専門知識のある先生から筆で字を書くことを教えてもらい、経験できることは、児童にとって良い経験だと思う。 ・初めて墨汁で書く活動で、基礎基本がきちんとした雰囲気の中で取り組めた。 ・手本の字を書いてもらい、その場でアドバイスしてもらえたため、ありがたかった。 ・鵜飼先生に見ていただくことを喜び、楽しみにしている児童がいる。 ・低学年のうちから水習字にふれることができ、児童も楽しく学んでいる。筆の扱いにも慣れることができてよい。
保護者	・低学年から筆で字を書く体験ができてよい。書への興味を引き出していた。低学年は普段、毛筆に触れる機会があまり無いため、継続してほしい。 ・専門の方に見て頂けるのは良い取り組み。機会がありがたい。 ・書道の自由さや楽しさを味わって欲しい。 ・道具を大切に扱うようになった。

(3) 学校関係者評価

- | |
|---|
| ・書道科講師を市が派遣してくれるのはありがたい制度だと思う。
・外部講師の指導時間がさらに増えるとよい。 |
|---|

(4) 課題

- | |
|--|
| ・児童や保護者からは、特に書道科講師について「もっと入ってほしい」「もっと教えてほしい」との声が上がっているが、全体の時間数や他の教科・活動とのバランスもあるため、状況を見定め、市全体でしっかりと検討しながら調整していけるとよい。
・指導内容に関して、書道科講師と打ち合わせをする時間を確保するのが難しい。
・教師からは「書道科」と「書写」の違いが曖昧で、評価が難しいという声が出ている。
・書道科講師が入る日のみ、時間割を特別に変更することで対応しているが、非常勤講師が勤務時間を変えて対応できないなど、他教科との調整に難航することも少なくない。
・低学年の授業は水書のみであり、作品が残せない。残していく方法を考えたい。 |
|--|